

畦畔の除草作業 省力化へ 防草シート×シバザクラ

「地域のために動くことが大切」と話す大道会長（写真左端）と農業委員ら



相生市農業委員会は市内3か所の畦畔に防草シートを設置し、景観の美化を兼ねてシバザクラを植栽する取り組みを試験的に実施している。昨年10月末にシートを設置し、定植したシバザクラが3月末頃から開花し始めた。

試験的に導入／景観美化も

地域では、「高齢により除草作業ができない」「作業委託しても畦畔では除草してもらえない」などの課題がでてきており、解決法の一つとして防草シートの

相生市農業委員会

効果が試している。防草シートは1枚×25枚で、一定間隔に穴を開けシバザクラの株を定植した。1か所当たりの資材費は約1万5千円で、農業委員10人が作業にあたり約1時間で設置できた。防草シートは透水性があり、シバザクラは定植時に施肥しただけで、管理の手間はかからない。今後株が大きくなれば一面がシバザクラで覆われるという。

同市矢野町では、グループや個人で設置する人が出てきており、取り組みが広がっている。

同市農業委員会の大道哲男会長は「除草作業は労力もいるし急な畦は危険も伴う。まず農業委員会が実際にやってみて、それが地域の農業者のヒントになれば」と抱負を話す。